

☆どうぞご自由にお持ち帰りください☆

新型コロナウイルス感染症の今後について

今回は、皆さんが今一番知りたいことについて、お答えしたいと思います。



1)第7波はどうであったか 2)ワクチンについて3) 今後どうなっていくのか、
についてです。

○第7波について

7月12日の新聞に「第7波に入ってるが、行動制限は不要」と見出しがついていました。尾身氏から「オミクロン株 BA. 5の感染力の強さや3回目からの時間が経ち抗体価が下がっている。一方、人々の行動制限のようなものは今の段階で必要ない。検査の充実やワクチン接種の推進、換気の徹底で乗り越えることは可能だ」などの発言があったという記事です。

国内の感染者第7波は、第6波を超え最高人数になりました。総計の患者数が2千万人を突破しました。8月15日をピークにしてその後、減少傾向になってきております。しかし10月に入った当初は富山県内で1日300人の感染者を記録しました。

第7波で、イギリスの感染者2370万人にかなり肉薄しました。8月は、数字上日本の感染者数が世界で第一位となっています。

第7波は、オミクロン株のBA. 5が主流です。BA. 5は大変感染力が強く、麻疹（はしか）並みと言われています。それに加えて3年ぶりの行動制限なしのお盆休みが、山を大きくした原因と思われます。4回目のワクチン接種については、高齢者は、順調に進みました。医療従事者への4回目の接種が遅れたために、医療従事者の多くが感染して一時、医療ひっ迫となりました。

感染力が強いために、病院の院内感染、高齢者施設でのクラスター感染が頻発しました。オミクロン株では、肺炎による重症化は低いですが、高齢者の全身状態の悪化、誤嚥性肺炎、脱水症などにより死亡者が増加して、死者数は第6波を超えました。2022年1月まで1.8万人に抑えられていた死亡者数は、9月8日時点で、4.2万人に急増しました。死亡者は、主に80歳以上の高齢者です。

3回目のワクチン接種を終えた人は、8200万人を超えています。ワクチンが死亡者数の抑制に貢献していることは間違いありません。（次のページに続く）



○ワクチンについて

10月より、オミクロン株に対応したワクチンの接種が開始されました。今後、3回目以降のワクチンを受ける場合はすべてのこのオミクロン株対応ワクチン（2価ワクチン＝従来のワクチンとオミクロン対応ワクチンと両方が含まれている）となります。臨床効果については実はまだ結果は出ていません。従来のワクチンに比較してオミクロン株の抗体をより効率的に産生できることは証明されています。従来型のワクチンも含まれていますので、オミクロン株の感染も抑えて、重症化も防ぐ「一粒で2度美味しい」ワクチンと言えます。



3回目を受けた人の中に、もう4回目はいいのではないかという、ワクチン疲れを起こしている人もあると思います。イスラエルのデータによりますと、3回目を終えて、4ヶ月以降に4回目の接種した人と、しなかった人を比較した研究結果が出ています。感染者数を45%、重症化数を62%、死亡者数を74%抑制しました。コロナワクチンは、6ヶ月すぎると急激に効果が落ちます。4回目を接種する時期がくれば、接種されることをお勧めします。

○今後どうなっていくのか

オミクロン株以降、新たな有力な変異株は見られていないようです。もしこの状況が続くならオミクロン株への対策を行えば、新型コロナは沈静化へ向かうと期待されます。しかし世界中のどこかで新たな変異株が出れば、また流行が起きる可能性が高いです。もう少し状況を見なければなりません。

人々が大きく移動する年末年始に、第8波のコロナ感染流行が起きるだろうと言われています。また今年、インフルエンザもダブルで流行することが警戒されています。南半球の冬（7月から8月）には一時、コロナ感染者以上にインフルエンザ感染者が出ました。この秋のインフルエンザワクチン接種も薦められています。

<お近くのクリニックに通院していただけます>

厚生労働省は、病状が安定した方にはクリニックなど「かかりつけ医」での治療を推奨しております。「真生会まで遠い中から来ている」「薬をもらうだけなのに待ち時間が長い」と通院にご負担を感じておられる方はお住まいの地域の医療機関にご紹介（逆紹介）させていただくことが可能です。真生会富山病院は地域の先生方と協力し「地域と連携する医療」を提供したいと考えております。逆紹介のご要望は主治医や近くのスタッフにお申し出ください。